



一般社団法人 日本顕微鏡歯科学会

第20回学術大会・総会 シンポジウム

大会長：寺内吉継

実行委員長：表茂稔

マイクロスコープ下での臼歯部インプラント処置の ポジショニングについての考察

佐久間 利喜

新栄町歯科医院

有史以前、ヒトは道具を使い火を利用し始めたことで、敵から身を守り、暗い夜を照らし、暖を取ることで大きな進化を遂げることが出来た。1920年代初頭、後にマイクロサージェリーの父と呼ばれる C.O. ニレーンが耳鼻科領域で世界で初めてマイクロスコープ下での手術を行い、その後、医師（医療従事者）とエンジニア（技術者）の研鑽により治療技術とマイクロスコープ自体とその周辺機器・機材の機能向上が行われ、眼科、脳神経外科、血管外科、婦人科、泌尿器外科等へとその領域を広げ、発展を遂げた。

そして先人たちの努力と挑戦により歯科領域への普及を果たし、可変式強拡大明視野での恩恵はより高精度で低侵襲な治療を可能にし、治療技術の向上だけでなく、教育にも寄与する事ができた。又、歯科領域でのマイクロスコープの使用は咽頭方向からの視点を得られないという制限により医科領域とは異なる独自性と発展を続けている。特に日本では歯内療法での使用が一部保険導入され、専門医だけでなく一般臨床医、歯科衛生士にもマイクロスコープは利用され大きな成果を上げることが出来た。

今回、一臨床家の立場から上顎臼歯部へのインプラント埋入処置について、マイクロスコープを使うことの優位性と評価を、又、臼歯の支台歯形成で直視（ミラーレス）主体で行うにあたっての考え方、特徴、注意点をミラー主体で行っている先生との違いと共通点を、そして昨今大きく取り沙汰されている DX（デジタルトランスフォーメーション）という潮流の中で、マイクロスコープは今後どのような形で私たちに関わり、寄り添ってくるのか、「見る」という言葉がどう変化し、どう進化をしていくかをマイクロスコープを愛する皆さんと一緒に考え、未来を描いていきたい。

≡ 略歴

岩手医科大学歯学部卒

新潟大学大学院医歯学総合研究科卒

日本顕微鏡歯科学会 会員

日本臨床歯科 CAD/CAM 学会 指導医

日本歯科保存学会 会員

日本歯内療法学会 会員

日本口腔インプラント学会 会員

(医) 尽誠会 新栄町歯科医院 理事長

鶴見大学歯学部非常勤講師